



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第14号（最終）

令和2年11月6日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部



肥大・着色良く、ふじの仕上がり良好！  
ふじの収穫は遅れないように！！  
病虫害被害果が混入しないよう山選果の徹底を！！  
野ネズミ・雪害対策は万全に！！！！

## I 概 要

無袋ふじは、全般的に肥大・着色が良く、仕上がりは良好である。

収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなるので、できるだけ早く収穫する。収穫は遅くとも、11月15日頃までに終える。

収穫時に、果実に泥が付着しないように注意するなど果実疫病対策に万全を期す。

病虫害の被害果は、山選果時に徹底して選別する。また、果点の小さな褐色斑点は輪紋病の可能性があるので、出荷先の選果基準にあわせてきちんと分別して出荷する。

黒星病の被害落葉は来年の感染源となるので、積雪前又は消雪後に集めて処分する。

野ネズミ対策、雪害対策など冬越しの作業を手落ちなく進める。

マメコバチの増殖を図るため、新しい巣筒の準備やコナダニの駆除など冬場の飼養管理を適切に行う。

## Ⅱ りんご生産情報

### 1 果実肥大・果実熟度、作業の進み

#### (1) 果実肥大

11月1日現在、ふじの果実肥大は、概ね順調であり、平年並みから平年をやや上回っている。

果実肥大 (11月1日現在、横径：cm、平年比：%)

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	9.0
	平 年	8.9
	前 年	8.7
	平年比	101
青森市浪岡吉内 (東青地域県民局)	本 年	8.9
	平 年	8.6
	前 年	8.9
	平年比	103
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	9.0
	平 年	8.8
	前 年	9.3
	平年比	102
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	9.0
	平 年	8.8
	前 年	9.3
	平年比	102
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.6
	平 年	8.6
	前 年	8.9
	平年比	100

(2) 果実熟度

11月6日現在、無袋ふじは、糖度、着色指数及び蜜果率は同程度、硬度はやや低く、酸度、ヨード反応及び蜜程度は低い。

ふじ（無袋）の熟度の進み

(11月6日調査)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜入り 程 度
黒石 (りんご研)	本年	393	3.7	14.8	14.4	0.328	1.5	100	1.6
	平年	352	3.6	15.1	14.4	0.392	1.7	99	2.3
	前年	338	3.9	13.5	16.2	0.444	2.6	100	2.0

平年：1996～2015年までの20年平均

- 注) 1 着色指数：0～5 大きい数値ほど着色良好  
 2 ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数0～5  
 小さい数値ほどでんぷんが少ない  
 3 蜜入り程度：0～4 大きい数値ほど蜜発生大

(3) ふじの果実形質調査結果

10月19日、20日に実施した果実形質調査の結果では、果実横径の分布割合は、40玉相当の87～82mmが36.4%で最も多く、次いで36玉相当の91～88mmが23.7%であった。

果実横径の分布

(10月19～20日現在)

区分	横径分布割合(%)										平均横径 (mm)	着果率 (%)
	32玉以上				36玉	40玉			46玉	50玉以下		
	97mm 以上	96～ 94mm	93～ 92mm	計	91～ 88mm	87～ 85mm	84～ 82mm	計	81～ 79mm	78mm 以下		
全県	6.8	8.0	7.4	22.2	23.7	19.7	16.7	36.4	11.5	6.1	87.1	31.3
津軽	5.6	7.6	7.4	20.6	24.5	20.5	17.0	37.5	11.4	6.1	87.0	31.7
県南	14.5	11.0	7.8	33.3	18.5	15.0	15.0	30.0	12.0	6.3	88.3	28.9

- 注) 1 調査地点：津軽 26地点、県南 4地点

(4) 作業の進み (11月4日現在)

収穫は有袋ふじが終了、王林が終盤、無袋ふじが始まっている。

## 2 作業の重点

### (1) 無袋ふじの収穫

収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなるので、できるだけ早く収穫する。収穫は遅くとも、11月15日頃までに終える。

ふじ（無袋）の収穫時の標準指標

食味	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	硬度
4以上	13.5%以上	2以下	2以上	13~16lbs

### (2) 果実の樹上凍結対策

気温がマイナス3度を下回ると果心部まで凍結する可能性がある。

ア 樹上凍結した果実は、樹上で自然解凍した後に速やかに収穫する。

イ 凍結した果実は凍結していない果実と区別して流通させる。

### (3) 山選果の徹底

本年はモモシンクイガの産卵が長引くなど、病害虫被害果の発生が懸念されるので、山選果時に徹底して選別し、混入させないようにする。

また、果点の小さな褐色斑点は輪紋病の可能性があるので、出荷先の選果基準にあわせてきちんと分別して出荷する。

### (4) 病害虫対策

#### ア 果実疫病（おそ疫病）

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意し、落果や収穫の際に落とした果実は、収穫果に混入させない。

また、収穫果は、長く野積みしない。

#### イ 腐らん病

収穫時のつる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入し発病することが多いので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

発生が多い園地では、ふじの収穫後のできるだけ早い時期に、ベフラン液剤25の1,000倍又はトップジンM水和剤1,000倍を散布する。

#### ウ 黒星病

被害落葉は翌年の伝染源となるので、積雪前又は消雪後にかき集めて適切に処分する。

#### エ モモシンクイガ被害果の除去

被害果は見つけ次第、7日以上の水漬けなど適切に処置をする。

## (5) 風害防止対策

強風被害に備え、防風網やわい性台樹の結束などを再度点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は、倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

## (6) 野ネズミ対策

苗木や若木、わい性台樹は、野ネズミの被害を特に受けやすいので防止対策を徹底する。

防止効果の高い時期は積雪前と融雪後である。

野ネズミの食害防止法には、被害の回避、忌避などの野ネズミを殺さないで被害を避ける「間接的方法」と、殺そ剤など使って野ネズミの密度を減らす「直接的方法」がある。基本的には両者を併用した対策が望ましい。

忌避剤及び殺そ剤の適用場所などについては、使用する薬剤の使用基準を遵守する。農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

### ア 被害の回避

(ア) 園地を清掃し、果実など餌となるものを排除する。

(イ) 幹の周囲を耕起し、野ネズミの巣を壊す又は巣作りを防ぐ。

(ウ) 幹に地上1 mくらいの高さまで金網や合成樹脂のプロテクターなど防護用の被覆資材を巻く。

(エ) 忌避剤による防止

⑦ 樹幹への処理 (アンレス、キヒゲン)

⑧ 樹冠下への処理 (フジワン粒剤)

(オ) 雪の踏み固め及び枝の掘上げ

2月以降、数回幹の回りの雪を踏み固める。雪中に埋まった枝は掘上げておく。

### イ 駆除

(ア) ワナなどの利用

金網製の生け捕りワナ、バネの力で捕らえる弾きワナ、粘着シートなどを利用する。

(イ) 殺そ剤の利用

園地の隣接する農家同士が共同で広範囲に渡って実施すると効果は高まる。

## (7) 雪害対策

仙台管区气象台発表の寒候期予報によると、今年の東北日本海側の降雪量はほぼ平年並みと見込まれているので、自分の園地の積雪量に応じて対策を行う。

### ア 根雪前の対策

#### 【苗木・幼木】

- ・主幹や枝を紐などで結束、特に主幹延長上の新梢も支柱に結束する。
- ・雪の沈降力で紐がずれて落ちないように、きつく結束する。

#### 【普通台樹】

- ・雪害を受けそうな枝に支柱を入れるとともに、不要な枝を大枝単位に剪去する。
- ・樹上に雪が積もりにくくなるように、徒長枝は剪去し、切り口に塗布剤を塗る。
- ・裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

#### 【わい性台樹】

- ・枝の中央部からやや先を枝先が上向きになる程度まで吊り上げる。
- ・不要な下枝などは剪去する。

### イ 積雪期間中の対策

#### 【普通台樹】

- ・冠雪による被害防止のため、雪を降ろす。
- ・雪中の枝先は、雪が新しいうちに抜き上げる。
- ・融雪期に入ったら随時見回り、枝を引き上げる。
- ・雪の沈降によって裂開及び折損しそうな枝で不要なものは、早めに剪去する。

#### 【わい性台樹】

- ・枝の掘上げを行う。
- ・下枝部分の雪を踏み固める。

### ウ 融雪促進剤の利用

- ・事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。
- ・2月上旬以降数回にわたり、晴天が数日続く日を選んで融雪促進剤を散布する。

## (8) マメコバチの飼養管理

近年、授粉がうまく行われていない斜傾果が多く見られる。その要因として、マメコバチの巣筒を長年使ったり、巣箱を園地内に放置したままにすることなどが挙げられる。結実量を安定的に確保するために、冬から早春にかけての管理や準備を適切に行い、マメコバチの増殖率を高める。

#### ア 新しい巣筒の準備

巣筒は何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、巣筒は3～5年に一度は更新する。

巣筒には内径6～6.5mmのアシガヤを使用し、25～30cmの長さに鋭利な刃物で一本ずつ斜めに切る。その際、アシガヤの節が出入口近くにならないように注意する。

#### イ コナダニの駆除

コナダニの発生が多い場合は、2～3月頃に筒を割って健全な繭を取り出し、繭の表面についたコナダニや汚れを落とすために、洗浄する。

繭の洗浄は、①浸漬→②こすり洗い→③すすぎ洗いの手順を10分程度で進め、その後、乾燥させる。詳細は合資会社・マメコバチ研究所ホームページ ([http://park1.wakwak.com/~mameko-bachi/mite\\_control.htm](http://park1.wakwak.com/~mameko-bachi/mite_control.htm)) を参照する。

乾燥した繭は小型の菓子箱などに入れ、ポリエチレン袋等で包んで、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

#### ウ 放飼時期調整のための巣箱の冷蔵庫保管

4月上旬頃、筒内でマメコバチが動き始め、カチカチと音がするようになったら、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

### (9) 酸性土壌の改良

酸性土壌を改良する場合は、土壌分析結果に基づき、収穫作業終了後に改良資材を必要量施用する。なお、土壌分析の依頼はJA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等で受け付けている。

## 3 一般作業

### (1) 園地清掃 (2) 堆肥づくり

#### 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

#### ◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。(青色申告の実施が要件)

令和3年の加入に係る申込期限は、継続加入の場合は11月30日(月)、新規加入の場合は12月28日(月)です。必要書類等詳しいことは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。については、令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

機械やはしごを使う際には、事故のないよう十分注意しましょう！

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

「令和2年産りんごの生産概況」は11月下旬発行の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ  
電話番号 : 017-722-1111代表  
                  内線 5097, 5092  
                  017-734-9492直通